

■CIS各地報告

<カタール>

日程	2014年8月23日(土)～9月6日(土)※15日間
場所	・Chiyoda Almanca Engineering LLC ・カタール大学
参加者	・大阪大学:工学研究科2名 外国部学部2名 ・カタール大学:工学部4名
引率者	大阪大学6名

<概要>

企業実習は、企業が用意した実習プログラムにそって行われましたが、カタール人の標準的な労働習慣に基づき 14:30 までとされました。ただし、日本人学生については(場合によってはカタール人学生も参加) 日々の実習修了後に企業の手配により日本大使館訪問、市場見学、ドーハに本部を置く報道機関の訪問など様々な体験を行いました。

企業実習内容は、基本的なことに加えて、複数国の社員の参加を得てゲーム形式によるコミュニケーション演習などもありユニークな内容でした。

企業から提供された実習課題は、このような環境にある組織で巨大プラントや建設プロジェクトを稼働させるための安全や品質管理、意思疎通のための体制などについてのものでした。

報告書作成は、ホテル内に討議用の部屋を2部屋取り、2グループに分かれて作業しました。多言語多文化ゆえの問題点、宗教面、環境への配慮と従業員の国籍の割合について、カタール人雇用のためのプログラム等の討議の他、プレゼンテーションの練習も行いました。なお、これらの活動はカタール人の礼拝を考慮し、当初から時間を変更して行われました。

最終報告会では、両グループのカタール人雇用に関する提言には企業の副社長が関心を示されました。

文化体験は、カタール大学の幹旋で4輪駆動車に分乗し南部の砂漠地帯をサウジアラビア国境近くまで行きました。大学にインターン来訪している多国籍の学生も参加し、交友を深める小旅行となりました。また、豪商の膨大な所有物が展示されている博

物館、招聘されている欧米の大学、ドーハの伝統的な市場などを訪問。両国の学生は良好な関係をつくり、積極的に取り組みました。

英語が不得手な日本人学生が英語留学を決意したり、自己表現が苦手であった学生がそれを克服できたり、カタール人学生は日本企業のカタールへの貢献を認識し、日本への関心を高めたりとそれぞれに気づきがあったようです。

学生たちは、言語により意思疎通が必ずしも十分ではない中、良好な関係をつくってそれまで持っていた先入観や偏見をお互いに払拭することができたようです。